

令和2年度 下永谷地域ケアプラザPDCAシート_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

下永谷地域ケアプラザの圏域エリアの人口は18,999人(H30.9)、高齢者人口は5,284人、高齢化率は27.81%です。孤立傾向や認知症高齢者、終末期、精神疾患等、様々な相談も増えています。地域住民や民生委員、医療機関など関係機関と協力体制を構築し、支援していきます。気軽に立ち寄れる福祉保健活動の拠点としての役割を幅広い年代層の方に周知し、福祉のまちづくりを推進していきます。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域に出向きケアプラザの役割や行なっている事業等について、チラシを配布し説明を行なうとともに、「ケアプラザ通信」を定期的に発行し、地域住民や関連施設などに配布・掲示し、情報発信を行ないます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	区役所や関係機関と連携し、子ども、高齢者、障がい児者と地域とのつながりづくり、当事者同士の交流の場として支援していきます。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	新型コロナウイルス感染症予防対策で閉じこもり傾向にある地域住民から、新たな生活課題を抽出し、専門職と地域住民と一丸となって地域課題の把握や仕組み作りにつなげていきます。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	新型コロナウイルス感染症予防対策で体力低下を改善できるように、ハマトレを住民やケアマネジャーへ周知していきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域ケア会議では、多様な「見守り」のあり方をテーマに、地域・医療・福祉が連携しやすい仕組みについて検討します。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

- 定期的に発行したケアプラザ通信は、デイサービスや生活の耳より情報、地域で活動する団体の紹介等、地域密着を目指しました。
- 地域の防災拠点訓練やケアプラザ文化祭、餅つき大会の中止に伴い交流の場がなくなりましたが、年度末のサバイバル体験会や平戸永谷川さくらまつりのイベント参加等での支援を行いました。
- 新たな生活課題として、外出が不自由になっても健康に暮らせるよう、続けてできる簡単な体操を紹介した「つながる通信」を発行し、地域住民と一丸となって配布しました。
- 体力低下を防ぐため、ハマトレ体操をケアプラ通信に掲載し、健康講座を開催しました。
- 地域ケア会議では民生委員、地域住民による「見守り」から、医療機関や消防の協力で専門職や家族へつなぐことを検討しました。

区からのコメント

地域のキャラバンメイトと協力し、地域住民や区シルバークラブ連合会向けにサポーター養成講座を実施するなど、認知症の理解を広げていただいています。地域ケア会議では参加者も工夫され、地域で暮らし続けるために出来ることについて、参加者から具体的に前向きな意見が出され、効果的な開催となりました。また、協議体や買い物ツアーでは、コロナ禍でも感染に留意しながら地域の方を巻き込んで積極的な取り組みが出来ています。話し合いの中で、改めて活動の目的や意義などを再確認する場面もあり、前向きに話を進めることで、新たな取組につながることも期待されます。今後もより一層、多くの地域の方が地域づくりに主体的に参画できるよう、ご意見をしっかりと聞きながら進めていただきますようお願いいたします。

令和2年度はコロナ感染防止のため、諸室の貸出しや相談業務、各種事業の実施などに様々な制限が求められました。そうした中でも、工夫を凝らしながら、関係者との協働により地区別計画の策定を達成するなどの成果も上がっています。今後、ますますのニーズ増が見込まれるICTの利活用については区役所としても各種取組の提案や情報提供などに努めていきます。引き続き、地域の皆様の期待に応えられるよう、適切・健全な施設運営をお願いいたします。